

令和5年度行政評価における 内部評価結果について

令和5年8月25日（金）
企画財政部 企画室

1 行政評価の目的

岩見沢市行政評価実施要綱 R1.5.31決定

行政改革大綱における経営型の改革として、令和元年度より本格導入。
総合計画で定めた成果指標の達成度による評価と関連する事業の進捗評価を合わせた行政評価を通じて、施策・事業の進捗状況の把握と適切な進行管理に役立てています。

※岩見沢市まちづくり基本条例においては、「効率的かつ効果的な市政運営を行うため、施策等について適切な評価基準に基づく行政評価を実施し、市民に公表」するよう規定。

行政評価の目的

- 成果重視の行政運営への転換
- 市民に対する説明責任
- 職員の意識改革と政策形成能力の向上

2 評価プロセスと対象施策

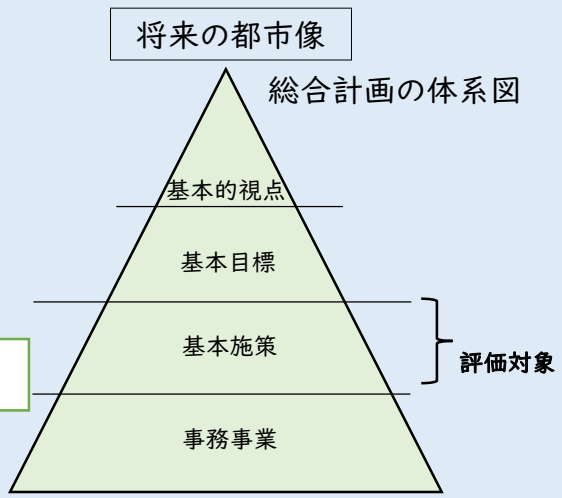
1 評価プロセス

- 一次評価（～6月下旬）：担当課による評価を行い、所管部長に報告
- 二次評価（～7月下旬）：企画室×担当課との調整・補正
- 内部評価結果報告：行政改革推進本部会議（事務局：企画室）
- 外部評価（8/下～）：市政改革懇話会（対象施策の抽出含む）、パブリックコメント
- 最終評価（9/下）：行政改革推進本部会議（事務局：企画室）

R5年度は9施策が対象

2 評価対象施策

- 総合計画の基本計画の施策体系に基づく「全32施策」（令和4年度事業が対象）
*事務事業は基本施策単位に関連付けて整理



3 評価基準等について

Ⅰ 評価方法（評価基準）

【成果指標に対する評価】 ※A～4点 B～3点 C～2点 D～1点

評価の視点	評価
ア 現状値及び昨年度値ともに向上／現状値より低下したが昨年度値より向上	A
イ 現状値及び昨年度値とほぼ同数	B
ウ 現状値より向上したが、昨年度値より低下若しくは昨年度値とほぼ同数	C
エ 現状値及び昨年度値ともに低下	D

※4段階で評価（平均点） A:2.6点以上、B:2.0点～、C:1.3点～、D:1.3未満

【進捗状況に対する評価】 ※A～4点 B～3点 C～2点 D～1点

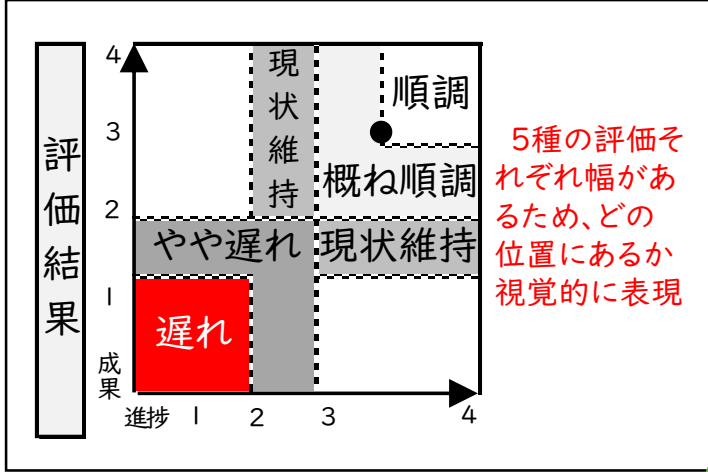
評価項目	評価の視点	評価	評価基準
達成度	・成果指標は向上（維持）、改善しているか ・目標の達成に向けた事務事業の展開に努力したか ・市民や社会のニーズを的確に捉えているか	A	十分である
		B	概ね十分である
		C	やや不十分である
		D	不十分である
有効性	・成果指標の向上（維持）、改善に有効な内容か ・事業実績は、成果指標の向上（維持）、改善に寄与する内容だったか ・事務事業の目的の達成のための手段は適切か	A	非常に有効
		B	有効
		C	やや有効でない
		D	有効でない
効率性	・成果を下げず、コスト削減できる余地はないか ・適正な受益者負担を求めているか ・実施体制に改善の余地はないか	A	改善の余地なし
		B	概ね効率がよい
		C	改善の余地あり
		D	大きく改善の余地あり

※施策に属する重点事業を4段階で評価（平均点） A:3.6点以上、B:3.0点～、C:2.0点～、D:2.0点未満

評価結果（成果と進捗のクロス評価）

評価基準	評価
成果指標・進捗状況ともにA	順調
成果指標はA、進捗状況はB 成果指標はB、進捗状況はA 成果指標・進捗状況ともにB	概ね順調
成果指標はB、進捗状況はC 成果指標はC、進捗状況はB	現状維持
成果指標はC、進捗状況はD 成果指標はD、進捗状況はC 成果指標・進捗状況ともにC	やや遅れている
成果指標・進捗状況ともにD	遅れている

成果と進捗の評価をクロスさせた総合評価



2 施策評価シート

内部評価済の施策評価シートは別途整理

令和5年度 岩見沢市施策評価シート			成果×進捗の総合評価	
基本目標	5	自然と調和した快適で暮らしやすいまち	評価 結果	
基本施策	3	公共交通の利便性の向上		
担当課	企画室	市民生活や交流の基盤となる公共交通の確保と利便性の向上を図るため、地域住民や交通事業者、関係自治体と協力しながら、利用者のニーズに即した路線バスの運行や新たな公共交通の導入などの取組みを進めることにより、総合的な公共交通体系を確立するとともに、住民意識の醸成と利用の促進に努めます。		

目標達成状況				R3市民意識調査結果を反映	
【市民意識調査結果】				重要度による相関図	
年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	重要度偏差値	
満足度	12.0	12.0		20位/32施策⇒23位/32施策	
重要度	0.461	0.523		17位/32施策⇒12位/32施策	
改善度	4.13	5.33		12位/32施策⇒9位/32施策	

・満足度→全回答数に占める満足と回答割合(数値が大きくなるほど満足度の度合いが高くなります。)[0~100]
・重要度→施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[1~1]
・改善度→重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど低いことを示します。)[2018年調査:-22.88~20.26]

【成果指標】								
指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
市内路線バス利用者数	114万人 (H28)	↗	バスの市内線に乗車した人数(1乗車を1人として計上)	85万人	60万人	59万人	57万人	D
JR利用者数(岩見沢駅)	9,084人 (H26)	↗	JR岩見沢駅における1日の乗降者数	9,400人 最新H30	9,124人 最新R1	6,540人 最新R2	6,606人 最新R3	B
公共交通を利用する市民の割合	新規	↗	通勤、通学、買い物、通院等で公共交通機関 を利用している市民の割合	—	—	23.5%	—	—
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 A:現状値より低下したが、昨年度より低下 B:現状値より低下したが、昨年度より向上 B:現状値及び昨年度ともほぼ同数 C:現状値及び昨年度とも低下				成果指標評価		2.0	B	

※★印は、コロナの影響後、現状値水準まで回復に至っていないため、変則的な評価を行っています。

市民意識調査における「満足度」は相対的に低く、本施策に対する満足度との関係性を示す「重要度」は中位に位置している。改善度は高く、重点的に施策を推進していく必要がある。

・R5.5における新型コロナウイルス感染症が5類感染症への移行に伴い、人の動きが徐々に活発化しつつあるが、観光客の減少・外出の自粛等により

市民意識調査による満足度や重要度の状況、指標の動向など

取組と 成果	○利用促進の取組み ・Instagramを活用し、室蘭線の利用方法を募集する「室蘭線インスタお出かけコンテスト2022」を開催し、15名42点の投稿があった。 ・バスの日(9/20)特別企画として、市内の小中学生を対象にバスにまつわる絵を募集し、応募のあった作品を一定期間中央バス車内に展示する「バスの絵募集キャンペーン」を実施。385点もの作品が集まり、有明交流プラザにおいて、応募作品を元に作成したパネル展も実施した。 ・JR北海道とJALが共同で運行する観光列車「ひとめぐり号」の運行に合わせ、列車内において、観光協会と連携した地元特産品の販売や到着ホ	取組みの進捗状況・施策の成果や要因、達成度、過程など
	・室蘭線 としての魅力を発信に取り組み中。 ○東部丘陵線コミュニティバスの運行 ・令和4年度より中央バス万字線及び市営バス万字線に代わる路線として、新たな運行事業者による適正サイズの車両での運行を開始し、廃止となった路線を運行していた際よりも利用者が増加した。 ○デマンド型乗合タクシーの拡充等 ・令和4年度より運賃改定のほか、果沢地区の乗降場所の追加、運行時刻の変更など効率化を図ることで、果沢地区の利用者増につながった。	

懸案事項や社会経済情勢を踏まえた課題など

・少子高齢化や免許返納者数の増加に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけとして普及したテレワーク・ウェブ会議が一般化した影響も含め、新型コロナウイルス感染症拡大以前と比較しても利用者は回復しきっておらず、依然として公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にある。
体制の変更を余儀なくされ、資金

今後の

・「岩見沢市地域公共交通計画」に基づき、通勤や出張等における公共交通利用の啓発や、小学校等を対象とした出前授業の実施等の公共交通利用促進に向けた取り組みを行うほか、持続可能な公共交通の実現に向け、利用実態・意向調査を実施する。
・JR線内におけるコミュニティバス「つづみ」の運行開始に向けた取り組みを進め、市民の利便性を向上させる。また、市民意識調査の結果を踏まえ、市民意識の醸成等の課題解決に向

進展させる考え方、優先的に改善する取組みなど

重点事業の実績		事業の実績		評価				
事務事業名				達成度	有効性	効率性		
【企画室】東部丘陵線コミュニティバス (中央バス万字線:平日24.3名、市営バス万字線:平日3.9名→東部丘陵線コミュニティバス平日:38.2名)				B	B	B		
●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点				3.0 B				
【達成度】		【有効性】					【効率性】	
A 十分である		非常に有効					改善の余地なし	
B 概ね十分である		有効					概ね効率が良い	
C やや不十分である		やや有効でない		改善の余地あり				
D 不十分である		有効でない						
事業に対する進捗評価								

事務事業一覧		事業費(単位:千円)			
事務事業名	事業概要	事業費			
		R2実績	R3実績	R4実績	
1 生活交通確保対策事業	JRや路線バスなどの維持や利用促進に取り組むとともに、これらの公共交通機関の利用が難しい地域はデマンド型乗合タクシー等でカバーするなど、民間事業者と協力して面的な公共交通ネットワークの構築に取り組む	93,310 (1.7人)	97,259 (1.7人)	77,920 (1.5人)	
【企画室】		105,550	109,159	88,570	
2 特定地方交通線(万字線・幌内線)廃止に伴い設置した転換促進関連施設の維持管理及び転換関連事業基金運用利子の積立を実施	特定地方交通線(万字線・幌内線)廃止に伴い設置した転換促進関連施設の維持管理及び転換関連事業基金運用利子の積立を実施	4,851 (0.5人)	7,439 (0.5人)	9,731 (0.5人)	
【企画室】		8,451	11,039	13,281	
【外部評価意見】					

パブリックコメントや市政改革懇話会における意見等

4 内部評価結果について

コロナ禍からの回復に伴う特別措置

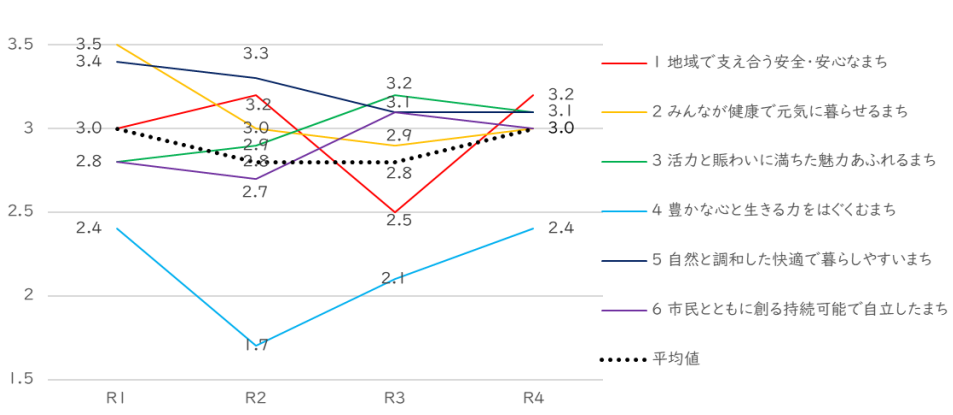
OR4年度はコロナの影響が一定程度緩和されたことに
伴い、これまで影響を受けてきた右記の成果指標につ
いては、R3年度と比較すると数値が上昇。

○コロナ前の水準（現状値）まで回復に至ってないこと
から、本来の評価基準（A評価）を適用せず、B評価にす
ることで整理を行った。

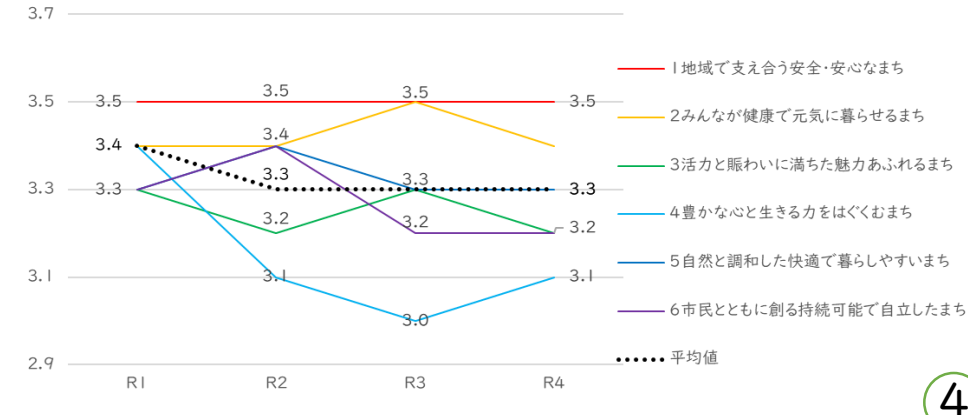
基本目標別の平均評価の推移

コロナの影響により一時的に評価が下がっていた「基本目標4」の成果指標・重点指標が回復し、評価全体の平均値についてもコロナ以前と同水準
にまで回復した。

【成果指標】



【重点指標】



【コロナの影響を受けた成果指標】

施策コード	施策名	成果指標	現状値	方向性	評価対象年次					評価
					H30	R1	R2	R3	R4	
1-3	消防・救急体制の充実	消防訓練参加者数	36,489人 (H28)	↗	29,776人	28,211人	4,963人	6,140人	12,047人	B
1-3	消防・救急体制の充実	救急講習受講者数	1,961人 (H29)	↗	1,409人	2,167人	402人	386人	454人	B
2-1	健康づくりの推進	各種健康教室参加者数	6,915人 (H28)	↗	6,095人	7,431人	1,243人	340人	2,465人	B
2-1	健康づくりの推進	がん検診受診率	4.85% (H28)	↗	4.04%	4.01%	3.44%	3.69%	3.87%	B
3-5	地域資源を活かした観光の振興	観光入込客数	119万人 (H28)	↗	108万人	111万人	59万人	61万人	87万人	B
3-5	地域資源を活かした観光の振興	市内宿泊施設の稼働率	52.1% (H28)	↗	47.9%	47.6%	36.3%	41.3%	48.9%	B
4-1	子ども・子育て支援の充実	子育てに関する相談件数	489件 (H28)	↗	506件	437件	312件	184件	196件	B
4-1	子ども・子育て支援の充実	子育て支援センターの利用親子組数	1,458組 (H28)	↗	1,241組	1,156組	530組	505組	563組	B
4-3	生涯学習の振興と社会教育の充実	市民大学及び高齢者口座の参加者数	270人 (H28)	↗	249人	261人	38人	48人	108人	B
4-3	生涯学習の振興と社会教育の充実	生涯学習センター「いわなび」利用者数	128,144人 (H28)	↗	117,457人	112,099人	55,126人	57,909人	81,895人	B
4-4	芸術文化・スポーツの振興	「市民文化祭」の参加者数	9,175人 (H28)	↗	8,008人	8,045人	1,532人	1,474人	2,663人	B
4-4	芸術文化・スポーツの振興	資料館及び指定文化財の利用者数	6,239人 (H28)	↗	5,296人	8,834人	3,330人	3,218人	5,328人	B
5-3	公共交通の利便性の向上	JR利用者数(岩見沢駅)	9,084人 (H26)	↗	9,588人	9,400人	9,124人	6,540人	6,606人	B

施策別の内部評価結果

● :R5外部評価対象施策		:評価アップ(対前年度)		:評価ダウン(対前年度)		
基本目標／基本施策		R4 最終評価	R5 内部評価結果	R3市民意識調査結果 (順位)		
地域で支え合う安全・安心なまち				満足度	重要度	改善度
●	1 地域防災力の向上	概ね順調	概ね順調	18 位	17 位	18 位
	2 総合的な雪対策の推進	概ね順調	概ね順調	4 位	28 位	30 位
	● 3 消防・救急体制の充実	順調	順調	1 位	31 位	32 位
	4 安全・安心な生活環境の確保	概ね順調	概ね順調	5 位	14 位	27 位
	5 地域コミュニティの活性化	概ね順調	概ね順調	12 位	22 位	23 位
	6 男女共同参画社会の実現	概ね順調	概ね順調	22 位	24 位	16 位
みんなが健康で元気に暮らせるまち						
●	1 健康づくりの推進	概ね順調	概ね順調	2 位	29 位	31 位
	2 高齢者福祉の充実	順調	順調	7 位	21 位	25 位
	● 3 障がい者福祉の充実	順調	概ね順調	14 位	22 位	21 位
	4 地域福祉の推進	概ね順調	現状維持	20 位	10 位	12 位
	5 社会保障制度の適正な運営	概ね順調	概ね順調	15 位	6 位	11 位
	● 6 地域医療体制の充実	順調	順調	9 位	8 位	19 位
活力と賑わいに満ちた魅力あふれるまち						
●	1 農林業の振興	概ね順調	概ね順調	21 位	30 位	24 位
	2 商工業の振興と中心市街地の活性化	概ね順調	概ね順調	28 位	20 位	10 位
	3 新産業の創出と企業立地の推進	概ね順調	概ね順調	32 位	19 位	7 位
	● 4 雇用の拡大と就業環境の充実	概ね順調	現状維持	31 位	15 位	5 位
	5 地域資源を活かした観光の振興	概ね順調	概ね順調	27 位	25 位	15 位
	6 移住・定住の促進	概ね順調	概ね順調	30 位	16 位	8 位
	● 7 国際・地域間交流の推進	概ね順調	概ね順調	29 位	32 位	22 位
豊かな心と生きる力をはぐくむまち						
●	1 子ども・子育て支援の充実	現状維持	概ね順調	13 位	17 位	20 位
	2 学校教育の充実	現状維持	現状維持	10 位	9 位	17 位
	3 生涯学習の振興と社会教育の充実	現状維持	現状維持	17 位	10 位	13 位
	4 芸術文化・スポーツの振興	やや遅れ	現状維持	8 位	25 位	26 位
自然と調和した快適で暮らしやすいまち						
●	1 魅力ある都市空間と快適な居住環境の形成	概ね順調	概ね順調	25 位	2 位	2 位
	2 快適な道路環境の確保	概ね順調	概ね順調	10 位	6 位	14 位
	3 公共交通の利便性の向上	現状維持	現状維持	23 位	12 位	9 位
	4 上下水道の適正な運営	概ね順調	概ね順調	6 位	27 位	29 位
	5 緑豊かなまちづくりの推進	順調	順調	3 位	13 位	28 位
	● 6 環境の保全と循環型社会の形成	概ね順調	概ね順調	16 位	5 位	6 位
	7 地域情報化の推進	概ね順調	概ね順調	23 位	4 位	3 位
市民とともに創る持続可能で自立したまち						
●	1 開かれた市政の推進	概ね順調	概ね順調	19 位	3 位	4 位
	2 持続可能な行財政基盤の確立	概ね順調	概ね順調	25 位	1 位	1 位

内部評価結果の内訳

評価結果	R4最終評価	R5内部評価	割合
順調	5	4	12.5%
概ね順調	22	22	68.8%
現状維持	4	6	18.8%
やや遅れている	1	0	0.0%
遅れている	0	0	0.0%

評価アップ(2施策)

4-1	子ども・子育て支援の充実	現状維持⇒概ね順調
4-4	芸術文化・スポーツの振興	やや遅れ⇒現状維持

主な要因

・コロナ禍からの回復に伴う、施設利用者・イベント来場者の増

評価ダウン(3施策)

2-3	障がい者福祉の充実	順調 ⇒概ね順調
2-4	地域福祉の推進	概ね順調⇒現状維持
3-4	雇用の拡大と就業環境の充実	概ね順調⇒現状維持

主な要因

・人口減少・高齢化に伴う地域活動の担い手不足
・物価等の高騰
・経済活動の活発化に伴う働き手不足

5 今後の進め方

1 外部評価

◆市政改革懇話会による外部評価

- ①対象施策担当課長からの説明
- ②懇話会委員との質疑応答及び意見交換（ヒアリング）
- ③懇話会委員による意見交換、意見集約

◆パブリックコメント

- ①市ホームページ公表（内部評価結果）
※市民意見に対する回答、施策評価シートへの意見反映

2 最終評価

- ◆今後の施策に反映することに主眼を置き、最終評価
※評価結果は、市ホームページに公表

32施策のうち、9施策のヒアリングを実施

1日目【8月25日（金）13:30～16:30】

施策番号	R5年度外部評価対象施策	担当課（説明課）
1-1	地域防災力の向上	防災対策室、遊水地建設室
1-3	消防・救急体制の充実	消防本部総務課
4-2	学校教育の充実	学校教育課、指導室
5-7	地域情報化の推進	情報政策課

2日目【8月28日（月）13:30～16:30】

施策番号	R5年度外部評価対象施策	担当課（説明課）
3-7	国際・地域間交流の推進	庶務課
6-2	持続可能な行財政基盤の確立	庶務課、職員課、企画室、情報システム課、市民サービス課
2-6	地域医療体制の充実	病院管理課、新病院整備室
3-4	雇用の拡大と就業環境の充実	商工労政課
2-3	障がい者福祉の充実	福祉課

岩見沢市市政改革懇話会委員

（敬称略・順不同）

選出区分	氏名	所属団体等
行政経験者	阿部 啓吉	コミュニティエフエムはまなす
学識経験者	鈴木 聡士	北海学園大学工学部生命工学科
地域経済団体代表	木村 聡	岩見沢商工会議所
女性団体代表	東海林 公子	いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議
町会・自治会代表	米内山 定雄	岩見沢市町会連合会
町会・自治会代表	干場 法美	岩見沢市町会連合会

後期（R5～R9）の行政評価に向けた考え方

■前期行政評価（内部評価）における課題・反省点

- ・前年度との比較による単年度評価となる傾向が高い。
- ・施策の一部でしかない成果指標が、評価全体に与える影響が大きい。
- ・市民意識調査との間に乖離が発生している。

■後期の行政評価に向けた取組み

- ・計画期間全体を考えた中長期的なスパン且つ客観的な視点での評価を実施
- ・施策の進捗と市民意識調査結果との間の乖離要因を分析したうえで、適切な内部評価及びアンケート調査の実施方法について検討を行う。